

## 令和元年度 第1回 吹田市立図書館協議会（会議録要録）

開催日時：令和元年（2019年）7月1日（月）

午後2時～4時半

開催場所：吹田市立中央図書館3階第2集会室

出席委員）広瀬委員長、柴田副委員長、植田委員、酒井委員、佐中委員、西野委員、  
林口委員、野々上委員、稲垣委員

事務局）木戸地域教育部長、落地域教育部次長、長中央図書館長、桑名参事、林野参事、  
宮東主査、森千里図書館長、森さんくす図書館長、牧瀬江坂図書館長、梶原千里  
山・佐井寺図書館長、添田千里丘図書館長、井手山田駅前図書館長

傍聴者）なし

令和元年度 第1回吹田市立図書館協議会次第

- 1 新委員の紹介
- 2 「平成30年度（2018年度）吹田市立図書館点検・評価報告書」（案）作成について
- 3 報告事項
  - （1）「平成31年度（2019年度）吹田市立図書館の基本方針と目標」について
  - （2）中央図書館の耐震補強等改修事業について
  - （3）健都ライブラリー整備進捗事業について
- 4 その他
  - （1）次回日程について
  - （2）その他

広瀬委員長：開会の挨拶

事務局：傍聴者確認

出席確認

地域教育部次長挨拶

事務局の職員紹介

資料確認

### 1 新委員の紹介

桑名参事：本日お配りした資料の吹田市立図書館協議会委員名簿をご覧ください。今回3名の委員の方がお変わりになりましたので、ご説明いたします。今般、教育委員会議におきまして学校教育及びPTA協議会からご推薦いただいております、委員3名の方の交代が承認されました。まず、家庭教育関係者として吹田

市PTA協議会よりご推薦いただいていた久保委員につきましては、役員改選に伴い辞任され、後任の委員として中村様をご推薦いただきました。次に、学校教育関係者として吹田市立学校長会よりご推薦いただいていた山口委員につきましては、役員改選により辞任され、酒井様を後任の委員としてご推薦いただきました。委員は、山田中学校の校長先生でございます。同じく学校教育関係者として吹田市立学校長会よりご推薦いただいていた上野委員につきましては、定年退職により辞任され、植田様を後任の委員としてご推薦いただきました。委員は、片山小学校の校長先生でございます。以上ご説明させていただきます。

#### 委員自己紹介

#### 2 平成30年度（2018年度）吹田市立図書館点検・評価報告書（案）について

桑名参事：「平成30年度（2018年度）吹田市立図書館点検・評価報告書（案）」作成に移る前に、本日報告事項の（1）とさせていただいております「平成31年度（2019年度）吹田市立図書館の基本方針と目標」についてを先にご説明させていただいたほうがわかりやすいと思いますので、そちらの説明を先にさせていただいてよろしいでしょうか。

議長：次第の3 報告事項の（1）「平成31年度（2019年度）吹田市立図書館の基本方針と目標」を先に説明したほうがわかりやすいという事務局からの提案です。事務局のほうから説明をお願いします。

長館長：今年度の基本方針についてご説明いたします。

1 ページ市内全体の状況ですが、来館者はのべ186万人を超えていますが前年度よりも10万人ほど減少しました。昨年度は自然災害が多く、開館日数も少なくなりましたが、延べ利用者数は若干増加し、忙しい中でも図書館の資料をあてにして貸出に来ていただいていたのだと思います。

基本目標の1、地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも、役立つ図書館サービスを目指します。ここでは主に施設と資料の利用についての目標を掲げております。

中央図書館の再整備については、今年度はいよいよ耐震補強と改修工事が始まります。耐震補強に加えて、今まで対応していなかった玄関扉や多目的トイレなどの施設のバリアフリー化や、老朽化した設備の更新などを行い、20年間継続使用するというものです。これについては後ほどご報告いたします。

図書館利用不便地域の解消については、岸部地区への健都ライブラリーの整備に向けて健都ライブラリー設置の条例も制定され、来年令和2年11月の開館を目指し、工事を開始しました。運営についても、指定管理業者の選定を行っているところです。健都ライブラリーにつきましても後ほどの次第で進捗状況

をご説明いたします。

北千里地区の図書館については北千里小学校跡地において、図書館、公民館、児童館を融合した施設の整備計画が進行中です。地元住民のご意向に沿った再整備となるよう設計業者とともに検討を続けています。

図書館の広域連携については北摂7市3町で平成29年7月1日から実施となり、昨年度は、さんくす図書館に続いて、新たに、要望が多かった大阪市民の江坂図書館利用ができるようになりました。今後も拡充の方向へ取り組んでまいります。

ホームページを活用してレファレンス事例や地域資料のデータベースの公開に引き続き取り組んでおります。いろいろなご意見をいただいてより良いものにしていければと思っております。また、市民にレファレンス業務についてPRするために「図書館で調べもの」の冊子の発行も続けています。

本の館外貸し出しを利用しない図書館利用のあり方についてもっと研究する必要を感じています。

大和大学の藤沢教授との共同研究の協力館としての知的障がい者の図書館利用について実践してきましたが、共同研究の期間が終了し、この実践を独自の取り組みとして拡充してまいります。行政との連携とについては、新着図書案内を市内LANに載せた効果が表れてきました。180万人が足を運ぶ施設としていろいろな部局から図書館を活用するお申し出をいただくようになりました。

基本目標の2 生涯学習を支援して、仕事や暮らしを豊かにする図書館サービスを目指します。図書館が提供している各種サービス内容を掲げております。今まで続けてきた取組みを後退させること無く充実させることを心がけています。重点的に取り組んでいるサービスとしては来館困難な障がい者への資料郵送サービスのほかに、昨年度、プレクストーク、デージー音訳図書の再生機をご寄贈いただきました。2つの分室を除く全館から貸出しができるように整備します。今まで、カセットテープでお聞きの方にも、デージー図書を気軽に聞いていただけるようになります。LL版図書館利用案内をはじめ、図書館見学を実施して図書館の存在を知的障がい者の皆さんに知ってもらう取り組みを始めています。千里図書館での「起業コーナー」への取り組みは地域経済振興室の協力も得て「吹田市立図書館ビジネス支援だより」の作成もしてきました。

基本目標3 子育てや学校の支援を通して、子どもの健やかな成長に役立つ図書館サービスを目指します。吹田市子ども読書活動支援センターの設置を大きな目標とし、その役割を果たすために、現在学校との連携を深めるための努力として学校に配置された読書活動支援員への支援を続けています。

ブックスタート事業については今まで中央図書館における中央館的な機能として記載していましたが、市役所各部との連携も進み、市立図書館の基本目標として位置付けて、きめ細かいサービス展開をめざします。

桑名参事：中央図書館の運営についてご説明いたします。中央図書館としての役割は方針の策定、資料の収集管理、情報管理や学校や関連施設と連携協力の拠点の役割、自動車文庫の運行が主なものとなっております。

平成 30 年度の成果としましては、学校支援の取り組みとして、「ごりまる便」や「ごりまる学校訪問」「もうよんだかなセット」の申込みをインターネット化するなど利便性の向上を図ったこと、岸部地域での図書館整備が進んでいることが挙げられます。

今年度につきましては、改修工事のため休館となりますが、吹田市立図書館の中心館としての業務は引き続き実施してまいります。吹田市立図書館の中心的役割を担う総合的な活動として、児童向け行事に携わるボランティア育成、図書館コンピューターシステムをはじめ各種サービスの企画調整を行います。また、リニューアル開館に向けてサービスの見直しに取り組みます。

そして、総合福祉会館 1 階の中央図書館臨時窓口で業務を限定して継続し、また自動車文庫については通常通り運行するなど限られた条件ではありますが、図書館奉仕をできるだけ継続して行ってまいります。

森司朗館長：千里図書館と北千里分室について説明します。

千里ニュータウン地区にある図書館として、北千里分室と共に乳幼児から高齢者まで暮らしに役立つ図書館サービスを目指します。また、学校など近隣の施設と連携して地域コミュニティの活性化に貢献できる図書館サービスの展開を目指します。千里図書館では、特に健康や医療に関する資料の収集や情報の提供、講座の開催に取り組みます。多文化サービスについては、日本人の多文化理解を深めたり、在住外国人を支援したりする取り組みをさらに進めてまいります。北千里分室では地域に密着したサービスを目指します。

平成 30 年度の成果と課題としては、地域経済振興室と連携し、平成 29 年 10 月に設置した「起業コーナー」は年度途中にも資料の追加発注をし、充実させました。「ビジネス支援だより」を 3 回発行しました。千里ニュータウンを撮影した寄贈写真資料は、展示会等で存在を広く知られ、テレビ番組で一部を使用されました。今後の課題は、地域資料として図書館のホームページでも公開していくことです。多文化サービスでは、「英語でえほんを楽しもう！」を関西大学の学生の協力を得て開催し、児童が英語に親しむ機会を設けました。健康・医療情報サービスでは、大阪府済生会千里病院と連携して講演会を 2 回開催しました。北千里分室では、地域の文庫と連携した絵本講座を 12 月に開催しました。また、北千里地区公民館と共催で 3 月に地域防災講座を開催しまし

た。公民館の講座と連動した本や CD の特設にも取り組みました。今後、学校との連携や医療機関など千里ニュータウン内の施設訪問をはじめとする地域との連携に取り組みサービス充実を図ります。

平成 31 年度事業計画の目標としては、千里ニュータウンは地域の高齢化が進んでおりますのでシニアサービスを充実させていきたいと思っています。「みんなで音読」や朗読を聞く「朗読四つの扉へようこそ」を働いている方にも楽しんでいただけるよう 8 月の夕方の開催にしました。今後も継続し、本を介した利用者同士の交流の機会を設けます。医療機関との連携によるサービスとしては、済生会千里病院との連携による講演会を引き続き開催します。多目的室の利用促進として、児童向けのおはなし会や各種行事に使用するほか、成人向けの講座や講演会、展示等の利用を通じて地域の人々の交流拠点として利用されるよう、積極的な活用を図ります。平成 28 年度から毎月開催を始めた「親子わくわく読書ひろば」を年 14 回開催し、小さい子供連れの親子が遠慮せず安心して読書できる場と時間を提供します。

北千里分室の取り組みとしては、近年は集合住宅の建替えが進み、建て替わった住宅への PR に努めます。従来の高齢者の利用とともに若い世代の利用が増えています。抱っこで絵本講座、おひぎで絵本、ブックスタートの広場などを通じ子育て支援にも努めてまいります。地域の文庫の方と連携して読み聞かせの講座などを実施します。また、同じ建物の公民館の行事と連動した特設コーナーの設置、文化祭、共催講座の実施などを通じて公民館との連携を深めてまいります。

森ほだか館長：さんくす図書館の紹介をいたします。さんくす図書館は、JR 吹田駅・バスターミナル前という恵まれた場所にあり、図書館利用に不便な地域からの利用も考慮し、様々な施設と連携し地域のまちづくりに役立つ図書館を目指しております。

さんくす図書館の奉仕圏は市内でも高齢化率の高い地域となっておりますので、高齢者の利用が大変多くなっております。平成 30 年度には、高齢福祉室と連携し「認知症予防講座」を開催し、多くの方に参加して頂きました。また「昔の子ども本を懐かしむ」と題して、明治から昭和初期の児童書の復刻版の展示を行い、併せて関連資料の展示も行いました。手に取ってご覧になる方や、後日貸出し希望される方もおられ、市民の皆様楽しんで頂きました。

また、さんくす図書館の周辺は、多くの神社・仏閣や重要文化財に指定された「旧西尾家住宅」や古民家を再生した「吹田歴史文化まちづくりセンター（浜屋敷）」など、歴史ある街並みが残っている地域になります。市民の方々も歴史に興味のある方が多く、一昨年のじゅずつなぎ講座が定員でいっぱいになったため、再演の希望が多く「吹田の地名あれこれ パート 2」の講演会を開催

しました。地域への深い関心につながった方も多かったようです。今年度も吹田の歴史に関連のある講座を予定しております。

児童サービスでは、昨年度8か所の幼稚園・保育園訪問をし、読み聞かせや大型紙芝居を行いました。今年度も引き続き、訪問する予定です。また、ブックスタート事業の絵本の配付率をあげるため、地域の6か所の「赤ちゃん会」へ参加し、絵本の手渡しを昨年度から始めました。今年度も同様に参加させていただきます。1冊でも多く、ブックスタートの本を親子に手渡しできるように努めていきます。昨年度は近隣の3カ所の児童センターへは、講師派遣を行いました。今年度も予定しています。

学校との連携では、読書支援者交流会を昨年度同様開催し、専任の読書支援者の学校7校に訪問して、さらに学校図書館・読書支援者とのつながりを深めていきます。

今年度は、中央図書館休館に伴い、中央図書館所蔵のマンガ資料を一部移管し、市民に提供してまいります。

特長的なサービスとしては、吹田市の地域経済振興室が設置している「JOBナビすいた・JOBカフェすいた」と連携し、求人情報などのチラシやパンフレットを収集しています。それとともに、今まであまり図書館で収集対象にしてこなかった資格試験の問題集や参考書などの資料も集めています。吹田の他の図書館にはあまりない資料ですので、よく利用されております。今後も資料の充実を図り、情報の提供に努めていきます。

大阪市との広域利用（試行）は、さんくす図書館と、今年1月から江坂図書館が加わりました。北摂7市3町の広域利用とともに、大阪市との広域利用も引き続き実施し、サービスに取り組んでまいります。

牧瀬館長：江坂図書館の説明をいたします。江坂はビジネス街に隣接し、子供の利用も多い職住混在地域です。文化的な催しに力を入れ子育てや仕事に役立つ情報発信をします。近隣の学校や施設との連携を図ります。平成30年度の「江坂ロビーフェスタ」（※1）は、10回開催しました。今後も、「江坂花とみどりの情報センター」と連携し、あらゆる世代の市民に図書館をアピールしていきます。児童サービスにおいては、「保育士の育児相談」「抱っこで絵本講座」などの行事を実施しました。

ビジネスコーナーを見やすく充実させ、ビジネス関連のチラシもビジネスコーナー横に設置しました。またビジネス講座を夜間開館時に実施し、好評を得ました。

朗読講座（3回連続講座）を開催しました。3回では伝えきれないという講師や参加者の意見もあり、次からは隔年で5回連続講座の開催に向けて検討します。

子育て応援情報コーナーを設置しました。また、畳を設置し多くの親子連れに御利用いただいております。

多目的トイレに温水洗浄機能付き便座を設置しました。

平成 31 年 1 月から大阪市との広域利用を開始し、大阪市民の方に江坂図書館を御利用いただけるようになりました。

商業地、オフィス街、マンション街という異なった性格を持つ地域の中心にある公園内の図書館として、ビジネス支援、子育て支援を柱としたサービスを展開します。

ビジネスコーナーに、地域経済振興室と連携してビジネス関連のちらしを設置し、情報発信に努めます。ビジネス講座を開催します。

子育て応援情報コーナーの更なる充実に努めます。

職員による「えほんのじかん」を月 2 回から増やし、毎週日曜日に実施します。

またその後、集会室で引き続き親子でゆっくり本を読んでもいただけるスペースとして開放できるよう検討を進めていきます。

YA 世代の学習支援のために、資料を充実します。

「江坂ロビーフェスタ」のさらなる充実と継続を図ります。

レファレンス通信の活用でレファレンス業務の認知度を高めます。

特徴的なサービスとしてはビジネス支援ビジネス街に隣接する図書館として、ビジネス関連の調査に必須の「帝国データバンク会社年鑑」「東商信用録」「業種別審査事典」等を備えています。また有料データベース「日経テレコン 21」の閲覧が可能です。

子育て支援ブックスタートのひろばの参加人数や絵本の配付数が多いことから子育て支援の必要性が高い地域といえます。

江坂ロビーフェスタ 音楽や舞踊といった文化芸術を市民に身近で楽しんでもらい、あわせて施設を利用することによって江坂図書館と「江坂花とみどりの情報センター」を知ってもらうことを目的にしています。実施回数は平成 15 年以来 146 回を数えました。市民協働事業の実施による地域の活性化に貢献します。

梶原館長：千里山・佐井寺図書館は、地域の図書館でありつつ、吹田全体の障がい者サービスの拠点館でもあるという、2つの役割を持つ図書館です。

木造校舎を再現した西館と広々とした閲覧室をもつ東館、この2つの建物を有効に活用し、「知的にまなぶ！あそぶ！つどう！」をキャッチフレーズに今年度も旺盛な図書館サービスを進めているところです。このキャッチフレーズに沿って特徴的なサービスを紹介します。

1つ目、「知的にまなぶ！」西館の参考図書・情報コーナーにはインターネットやデータベースの端末を設置しています。そこを使って図書館ホームページ

使いこなし講座を開催します。これまでの参加者からは「少人数で丁寧な説明がよかった」と好評です。

キャッチフレーズの2つ目、「知的にあそぶ！」四季折々に合わせた参加型展示イベントを行います。イベントの中味は、折り紙やぬりえをボードに飾るもので、小さい子供でも参加できるように工夫をしています。今年は、七夕の「短冊」にお願いを書いてもらいます。昨年好評だったハロウィン撮影会は今年度も開催する予定です。

キャッチフレーズの3つ目、「知的につどう！」です。西館の多目的室では今年もたくさんの行事を予定しています。児童向けのおはなし会やおたのしみ会、大人むけの朗読会やヘルマンハーブの演奏会など、心和むひとときを過ごしていただけます。この多目的室は、市民団体の活動の場としても利用されているのですが、利用されている団体の方に講師をお願いしたり、ボランティア団体と共催で行事や講座を行うなど、地域でのさまざまなつながりを生み出している場ともなっています。また、ボランティア会議室では、ボランティアの皆さんが吹田に関する新聞記事のデータベース化に取り組んでおられます。今年度も続けて協働をすすめてまいります。

次に、障がい者サービスについてお話しします。千里山・佐井寺図書館は、平成16年の開館当初から障がい者サービスの拠点館として、ボランティア養成講座や音訳図書・点訳図書の製作と貸出を行ってまいりました。ボランティア養成講座は、年に5講座を開講し、あらたなボランティアの養成と、すでに活動してくださっているボランティアのステップアップを継続的に図っています。平成29年8月から開始した墨字本（活字の本）の郵送貸出ですが、平成31年3月末までに25名の登録、226冊の貸出があり、予想以上の反響に驚いています。（郵送貸出というのは肢体不自由等、図書館に来館しにくい方に郵送で図書を貸出すサービスです）また、昨年6月には、知的障がいを持つ方々にさわる絵本やマルチメディアダイジェストを楽しんでいただく図書館体験ツアーを開催しました。今年もつい先日、開催したところです。このような取り組みを今後も発展させていけたらと考えています。

添田館長：千里丘図書館は、平成25年1月に開館し、来年1月で開館7年になります。

古くからの住宅街に加えて、大規模マンションが建設され、子育て世代も多い地域の図書館として、あらゆる年齢層の方の生活、仕事に役立つサービスの提供に努めています。

まず、特徴的なサービスとして、市民作品展示を紹介します。これは書架の上や階段のスペースに、市民から公募した絵や写真などを2カ月単位で展示するという企画です。昨年度は出品者が講師となり、「新聞ちぎり絵講座」を大人向けに3回、子供向けに1回開催しました。参加者に大変好評で、申込開始初



日で定員となった回もありました。また、写真の出品者の方からは、動物の写真を寄贈いただき、子供向けに「どうぶつクイズ」を初めて開催しました。市民作品展示を介してつながりのできた市民と協同し、今後も生活に役立つ講座を開催したいと思っております。

次に、図書館の屋上庭園の植物の世話をしてもらう緑化フレンズの活動をご紹介します。毎月2回、草花の手入れや除草をしていただいております。ガーデニングの好きな市民同士が交流を深める場となっております。緑化フレンズ以外にも図書館フレンズには積極的に参加いただいております、毎月の壁面装飾の参加者も定着しております。

今年度の目標としては、時間を変更した読み聞かせの定着をはかり、朗読会や水彩画、ちぎり絵の講座を開催するなど、子供から大人まで楽しめる行事を実施し、図書館をさらに身近に感じてもらえるように努めます。また、地域内の小中学校を訪問し、図書担当の先生や読書支援者と連携を図りたいと思っております。

井手館長: 山田駅前図書館は、平成23年3月にオープンしてから丸8年を迎えました。

子育て青少年拠点施設夢つながり未来館愛称ゆいびあの中にありますので、子育て支援・青少年活動をサポートできる連携行事にひきつづき力を入れます。平成30年度の成果と課題ですが、ゆいびあ施設との連携では「ゆいびあの日」という行事を実施。青少年サポートプラザ、のびのび子育てプラザ、図書館の3施設連携事業として、夏祭り、お正月あそび等を開催しました。

ゆいびあ1階ののびのび子育てプラザとの連携を深めました。えほんのひろば就学前児童を対象に、のびのび子育てプラザで、絵本の読み聞かせと読書相談を行いました。ブックスタートのPRにも努めています。

YA世代には、青少年サポートプラザと連携して初めて本の紹介冊子の編集委員として活動してもらいました。

その他、施設面では直結階段にブックスタートやWi-FiのPRポスターを貼ることにより、駅からも目につくようになり、問合せが増えました。利用増につながるよう、引き続き工夫をしていきたいと思っております。

山田分室では、引き続き地域密着型の図書館として、公民館や学校等との連携を進めていきます。

今年度の事業計画と目標ですが、図書館の積極的なPRと、子育て支援、YAコーナーの充実に取り組みます。ゆいびあ内他施設の利用者にも、図書館を利用してもらえるよう図書館の行事のPRや各種リストの配布などの促進を図ります。

子育て支援としては、引き続き「ひとりのびのび読書タイム」など、のびのび子育てプラザとの連携事業の充実を図ります。

YA コーナーには、市内の高校の学校案内を設置し、進路選びに役立つ情報を発信します。中高生世代に図書館を身近に感じてもらえるような取り組みとして、夏休み期間、YAサポーターを募集し、ボランティアで資料の整理・配架などの活動をしてもらいます。

就労支援の一環として、ゆいぴあの青少年相談施設ぷらっとる一む吹田の利用者に、引き続き図書館で配架ボランティアをしてもらいます。

ゆいぴあの連携事業の一つとして、9月にリサイクル本フェアを開催します。他の施設の行事開催時には、ブックリストの提供などの協力を行います。

山田分室では、同じ建物内の西山田公民館との共催行事「ほんのひろば」などに引き続き取り組みます。また近隣には小学校も多いため、図書室の読書活動支援者のサポートにも努めます。

広瀬委員長：報告事項ですが、御意見御質問がありましたらお願いします。

西野委員：今の報告ですが、今年度の目標をいうのがポイントですね。30年度の実施したのについて書いているので、基本方針と目標に合うのかなと思いました。各館の館長さんがおっしゃっているのを聞いていたらこの資料を読むより、各館の特徴をちゃんとやっている。去年何をしたかを言っていてそれに基づいて今年何をやるというのを言っているのに、この資料とお話が合致していないと思う。この資料に書いていないけどすごく良いことをしている。たとえば、千里丘図書館の屋上緑化を緑化フレンズでもらったと言っているのに、この資料の中には見当たらない。去年から言っているが、やったことはしっかり書いておかないと、言葉を聞いてやっていることはわかったが、事前にもらった資料と合致していないように思う。説明を受けながらどこのことを言っているのかわからなかった。点検評価報告書にも関係してくるし、せっかく実施していることの市民へのアピールができないのではないかな。

昨年、点検評価報告書で各館の特徴を書くべきだといったのですが、今回言っていることを聞いていたらここで「去年これをやりました。今年はこれをやります。」とちゃんと館の特徴を言っている。これを評価報告書の中で書いてアピールするべきではないかと思います。こんな良いことをやっているということを明確化する必要があると思いました。

広瀬委員長：この書式は各館ごとになっていて、具体的な取り組みの結果とそれを踏まえた目標と立案というスタイルになっています。検討する点検評価と違う書式なのでわかりにくい面があるのかと思います。各図書館が特徴を持って取り組みをされている成果を充分汲みつくされているのかという御意見だったと思います。昨年の発言は覚えています、この枠組みを大きく変えるのは難しいのでしょうか。

長館長：点検評価報告書は図書館全体のこととして評価していただいています。西野委員のおっしゃったように各館ごとにまとめると各館の評価をしていただくことにな

ると思います。

西野委員：基本方針と目標の中で各館がすでにおっしゃっていることです。各館の努力したことを評価するのはおかしくないと思うし認めたいと思う。評価してあげればいい話だと思う。

長館長：点検評価報告書は総合的な評価として作成しています。評価のために基本方針と目標の説明をしたわけですが、私も各館のしていることを改めて認識しました。今の説明によって評価する中身をご理解いただけたらと思います。基本方針と目標は図書館独自のものでこの様な目標を定めてしています。結果はこうなりました。私たちはこう思っていますが、外部の委員さんにとってどうなのかを図書館全体として評価していただきたい。そのために詳しく説明させていただきました。

西野委員：評価は評価でよいと思います。各館ですごくやっている。やったことを自分たちでまとめて利用者に表現しアピールすることができることが重要だと思います。

長館長：これはホームページにも載せています。

西野委員：言葉で説明されたことが大変良かったので、ここに書いてあるこの表現で本当にいいのかなと思いました。

長館長：ここにはたくさんの内容を盛り込んでいるために一つ一つの説明ができていないというところがあります。評価のこともあるので今皆様に御説明したことは中でも一押しの部分のアピールをさせていただきました。内容的に違ったものということではありません。

西野委員：私が言いたかったのは、図書館は市民にとってこういう風に役立つものであるとアピールするべきで、文章ではなく説明している内容はすごく良くて、ここに書かれている文章よりわかり易くきっちり言っていてそっちのほうが良かったと思います。文章をいっぱい作るのは無駄なことだからそんなことはしなくて良いと思います。もっとコンパクトに図書館のしていることをもっと市民にアピールしてください。我々委員にもアピールしてください。これをどうするのかは図書館で決めることです。無駄な資料を作る必要はない。去年も言いましたが、今年もこの形になっています。じゃあ何を考えられたのでしょうか。

広瀬議長：ホームページにはこれが上がっていて関心のある市民はこれをアクセスしている。アピールの表現が他にあるのではということで、ほかの委員の方でなにかありますか。SNSや紙の媒体などを使って広報などもされていると思います。新たな意見として何かありますか。

西野委員：先ほどの説明は1ページくらいの表になるのでは。ホームページに載せるために無駄な作業を増やさないでほしい。簡単にまとめて貼り出せるようなもの。図書館の存在意義を利用者に示すことが大切だ。コンパクトでよいと思う。どれだけの人がネットで報告を見るのかわからないがもう少しわかりやすく表現する必要があると思う。ページ数はいらないので短くまとめて表現してほしい。そうい

う事を考えてほしい。他の方はいかがですか。良いことを言っているのでアピールすべきだと思います。

長館長：西野委員がおっしゃっているのは、この中の各図書館が一押しだというエッセンスを使って作成する概要版的なものかと思います。この中に図や写真を多用してただそれは、この今の基本方針と目標があって作成するものだと思います。

西野委員：中央図書館についてはそうかもしれません。各地域館はこれを読んでいると独自性を持って運営するよと言っているように感じるし、現在そのように運営しているのならばもっとアピールしたらよいと思う。ページ数もこんなにいらぬし短くまとめたら良いと思う。私は無駄な作業を増やしたいと思っていません。物事にメリハリが必要だと思うのできゅっとまとめれば良い。何でもかんでも書いても誰も見ないし読まない。その辺をご検討いただきたい。意見です。

広瀬議長：事業の取組の全体像を示す必要もあるし、特徴も伝えたいということですが、とりわけ各地域館の特徴を知ってほしいと思うと、よりメリハリをつけたそれは館がやっていることのすべてではないがそれも一つのアピールと考えたほうがよいという意見ですね。基本方針と目標ですのである程度全体像を示す必要があると思います。事業報告書ではないので全て入れる必要はなく、市民向けということであればメリハリが必要になるのかと。このボリュームを頭から読む人がどれだけいるのかということ、市民向けという工夫で考えてみてください。

一点だけ確認です。中央図書館が耐震と改修に向けて期間が変わると思うのですが、市民の利用面で閉館を意識した貸出点数などについて修正した目標になっているのか、中期目標であるので当初のままなのでしょうか。数値が目標に達しない場合、そもそも立てた目標が適切であったのかということになります。基本方針の冒頭に目標値の見直しということが挙げられていますので、状況を踏まえた上での設定でしょうか。

長館長：当初定めた時のままです。

広瀬議長：臨時の対応のままで目標が達成できるのであれば良いのですが。そもそも状況が違うのに目標値を変えないまま、次の評価の時に目標値を達成できないから駄目だということもおかしなものかと思います。これは確定したものですので確認でしかないのですが、当初目標通りということ。御質問はありませんか。

林口委員：吹田市立図書館の基本方針と目標がホームページに載るということですが、21ページからの図書館語句解説の部分も載るのででしょうか。

長館長：これも一緒に上がっています。

林口委員：先程の緑化フレンズですが、17ページのなかに緑化というボランティア活動をしているということも書かれています。語句説明などの中に補足説明をすることで全体のボリュームが抑えられるのではと思いました。

千里山・佐井寺図書館のキャッチフレーズに則って説明していただいたのが大変わかりやすかった。知的に学ぶとは、遊ぶとは、集うとはいうことで活動をまとめたのがよかったと聞いていて思いました。

野々上委員：千里山・佐井寺図書館のキャッチフレーズは開館の時のリーフレットにも載っていたと記憶しています。知的に学ぶとは、遊ぶとは、集うとはいうことが書かれていたのでまた、見ておいてください。千里丘図書館にもリーフレットがあったと思います。

林口委員：パンフレットなどは少ない分量でいかにアピールするかということになっているので、ホームページでもそのように目標や基本方針を説明したら良いと思います。

広瀬議長：24ページの語句説明については行事補助と装飾について書かれていますが、緑化の話が抜けているので次回一言入れてください。ここにそれぞれの館のキャッチフレーズがついているのはわかり易くていいなと思います。市民にも伝わってイメージを持っていただけるといいなと思います。

西野委員：キャッチフレーズは各館に貼っていませんでしたか。

長館長：全館分の長いポスターを各館で貼っています。

西野委員：図書館の入口に貼っていて、各館の特徴を表すものなのでアピールに使えると思う。

すみません。吹田市にとって今「健都」は大きなものなのに図書館の中では4ページのところで少し載っているだけのように思うのですが、実際「健都」のことでいろいろやっていると思うので、それこそもっと書くべきではなかったのか。来年のところで書くことになるのであれば、そもそも今年目標や基本方針で「健都」を打ち出すべきではなかったでしょうか。感想です。

長館長：現在「健都」の中の施設、市民病院や国立循環器病センターも開院したばかりで、これからの連携については市の担当部局で進めています。健都ライブラリーの建設についても担当部局と協力しながら進めていますので、これからだと思います。

広瀬議長：建築や館の体制について少しずつ進んで行っているということで、今年度目標にどの程度書き込めるかというところで、現在は準備期間ということで、走り出してから活動目標に立てられていくのかと思っています。楽しみです。

では、次第の2に戻りまして、「平成30年度(2018年度)吹田市立図書館点検・評価報告書(案)」作成に移りたいと思います。改めて、事務局から説明をお願いします。

長館長：平成30年度の点検評価報告書について説明させていただきます。先だって、お送りした資料をご覧いただいているかと思います。毎年実施しております点検評価ですが、平成30年度に実施しました事業を図書館の基本構想の項目に合わせて整理し、数値目標についてはアクションプランに合わせて設定しております。お送

りしたものについて現在数値の検証中である旨お知らせしておりますが、今回の協議会で「吹田市の図書館活動 平成 30 年度版」を皆さんにお配りし、「統計数値が確定しました。」と御報告するものです。したがって、数値につきましては確定値が出ておりませんので、去年のままのところがございます。

平成 30 年度中に実施した事業について成果と課題を入れて作成しました。図書館の評価につきましては A B C D の 4 段階の評価を今の段階で数値が確定しているものについては整理して入れております。

今年度の評価については取組みを実施しておおむね現状維持できているというところを一定の成果と見て B、現状より成果が上回ったものを A、下回ったものは C、取組み自体が出来なかったものについては D、ということで整理させていただいています。評価の基準についてはどなたが見てもわかり易いものにして反映させようと思えます。

1 ページに吹田市立図書館の 3 つの基本目標というのが掲げてございます。これにあわせて毎年事業に取り組んでおります。

2 ページ基本目標 1、いつでもどこでもだれでもサービスをということで取組み 1 として施設及びサービス網の整備をあげています。中央図書館の整備と、利用不便地域の岸部に新設する図書館の進捗と、数値としては広域利用の結果をあげました。中央図書館の整備については耐震改修工事の設計を行いました。令和元年度から改修工事を行い、20 年間施設を維持し、その後は複合施設などでの建て替え再整備を考えることになりました。健都ライブラリーは整備が進み、令和 2 年 11 月の供用開始に向けて条例整備が進みました。広域利用では 4 月から江坂図書館での大阪市民の利用が始まりました。

3 ページの利用促進については数値として貸出冊数とホームページへのアクセス数を入れております。平成 27 年度にシステムの入替のための休館やシステムの停止などがありいずれも数を減らしたものが回復しました。メールマガジンや新着図書お知らせサービスの登録は過去最高となっています。昨年度までありました来館困難な人へのサービスについては図書館利用に障がいのある人へのサービスの項目へ移しました。

6 ページ取組み 3 資料と情報の提供ということで、昨年度取り組みました図書館講座、文化行事の参加人数やレファレンス（読書調べもの相談）の数値を入れております。そのうち行事については数値が確定しておりません。ここはアクションプランの数値を見直した個所となっております。成人向け児童向け合わせて平成 31 年度までに 26,000 人の参加者をということで教育委員会の重点目標に掲げたことから、その数字からそれぞれ割り戻して参加人数目標とさせていただいています。現在こちらの数字が集計中となっており、現在のところ自己評価が未記入となっております。確定次第新たに作成して報告いたします。

基本目標 2 仕事や暮らしを豊かにする図書館サービスということですが

11. ページ取組み 1 施設や地域との連携 出前講座や講師派遣の依頼の数を入れております。専門職としての仕事ととらえ、今後も取り組んでまいります。

12 ページ取組み 2 自己実現の援助 こちらは主にボランティア関連の項目となっております。現在も多くの皆様に支えていただき図書館活動を続けております。こちらは目標値が高いためなかなか届きませんが、いろいろ努力を続け、登録者数は前年度より増えています。市民団体とのコラボも長く続けております。江坂のロビーフェスタなどは参加人数が 1000 人を超えています。長く続けてきた成果と考えています。

15 ページから、取組み 3 図書館利用に障がいのある方へのサービスの充実ということで、音訳図書の貸出が増加しております。デジ再生機の貸出や、ユニバーサルコーナー誰もがわかり易い本のコーナーの設置などにも取り組みました。前年度開始の来館困難な方への郵送貸出も利用者が増えています。

17 ページからの 特色あるサービスは 各館がそれぞれ取り組んだ事業についての評価となっております。ビジネスコーナーを設置した江坂図書館ではビジネス講座も開催しています。

19 ページから基本目標 3 子育て支援、学校連携などの児童サービスについてブックスタートでは地道な努力の結果、絵本の配付率 80%をおおむね維持しています。

ブックスタートのひろばとおひぎで絵本の参加人数は少し減少しました。学校連携の数値目標については、図書館見学や学校訪問が数値を減らしています。昨年度は地震や台風の影響もあり、少しそれらの行事が低調であったように思います。児童文学に係る講座については予算が決まっており、実施できる回数と図書館の集会室の収容キャパを計算したところ妥当な数字と考えられる目標値で設定し、目標を超えています。講師派遣についてはお声がかかれば予算や施設のキャパに関係なく実施できるということで、機会があれば図書館から出かけて行って図書館利用を呼びかけ、読書振興につなげることを目指しています。

本日いただく意見と、引き続き御意見を所定の書式を送りますので、お電話、お手紙もしくは電子メールで 8 月中までに頂きましたら、それを反映させて、次回、協議会の評価を入れたものをご提案させていただき検討のうえ確定します。その後点検結果報告書の公表となります。御意見につきましてはお近くの図書館へお預けいただくということでも結構です。次回の会議を経て図書館の評価も変わることがあるかもしれません。忌憚のない御意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いたします。以上説明でございます。

広瀬委員長：未記入のところなどがありますが大枠この形で点検評価をしていくということです。現時点でのご意見質問を出してください。

稲垣委員：点検評価というと、どうしても数値が主役になるのですが、前半「基本方針と目標」で丁寧に説明していただいて、本当に多彩な活動をされていることがわかりました。市民参加型が多いですね。しかけは図書館がするのですが、実際、講師をしてくださる方が増えたり、あるいは、いろんな年齢層の方がかかわっているということが先程のお話から理解できますので、そのあたりを見れば、数値だけだと減っているかもしれませんが、私達も丁寧に見ていきたいと思います。細かい活動がわかりにくいので質問します。たとえば若い人、YAのサービスなどで基本方針19ページ山田駅前図書館でYAサポーターを募集と出ています。ほかの館でもいろんな形で取り組んでおられると思います。全国的に中高生年代が図書館に足を向けるのが難しくなっていますが、現在吹田の山田駅前図書館などではどんな状況なのでしょうか。

井手館長：それなりに利用はありますが、図書館に大勢来ているとは感じられないです。しかし、声をかけ、募集すればこのように応募して活動してくれます。青少年活動プラザのほうには大勢いますのでなんとか図書館のほうに降りてくれないかとエレベーターのところにチラシを貼ったりして声掛けをしています。

稲垣委員：Facebook などにも挙げているのですね。若い方の見るメディアを活用しないと無理なので。そのあたりの努力も評価の中で見ていきたいです。もう一つ質問ですが、点検評価17ページ一番下地域経済への貢献、広告事業の項目ガンバ大阪資料収集を続けとあります。ガンバ大阪の資料とはどんなものですか。たとえば映像資料とか統計資料とか何を収集しているのですか。

長館長：映像資料はありません。ガンバの発行している年鑑類。ガンバのほうでもこのごろ冊子体では作らなくなっています。ガンバ発行資料やポスターなどもいただいていますのでそれを図書館の資料として集めています。

稲垣委員：ガンバ大阪の発行している資料を印刷媒体でもれなく集めるという事でしょうか。

長館長：以前は新聞記事もとっていたのですが、Jリーグ全体として全国にわたりどこからでもアクセスできるということで、現在は集めていません。

野々上委員：2つほどお聞きします。

基本方針と目標でありましたが、子ども読書推進計画があつてその後子ども読書活動推進センター機能の充実が進められているとあつたのですが、大阪府ではすでに4次までとなっていると思うのですが吹田ではこの後どのように進められていくのでしょうか。児童センターや児童部そのほかの施設とも連携しながら読書活動を推進していくというものだと思うのですが、どのように進めるのか具体的にわかりやすく説明してください。2次3次はもう作らないのでしょうか。市民参加も無いのでしょうか。

長館長：具体的ということでは学校との連携につきまして、読書活動支援員さんのサポー



トプログラムを実施し連携を図っております。学校への団体貸出の運搬保障をしたいと思っています。ほかの団体とはまだ話ができていません。

野々上委員：考えておられるので前向きに子ども読書推進センター機能が充実するようにしていただきたい。それと学校の先生たちもお見えになっているので、学校図書館の充実を考える市民の会として聞いていただきたいことがあります。会としてもサポートさせていただき支援者さんも月に1回集まっておられます。ただ集まるのは多い時でも18名と約半分の人なのです。今年は各学校を回ることになり、前は南山田小学校に集まってパソコンの研修をしました。次回は岸二小学校で順番に地域を回りましょうと言っているのですが、心配なのは、そういう事に1回も出てこられない支援者さんなのです。図書館もバックアップしてそれぞれの地域で交流会などを催していますが、図書館の夜間開館の時間になり、家庭のことなどで出にくくなっています。現場の校長先生などがどの程度把握しておられるのが心配です。面倒を見てくださる校長先生だと安心です。一人職場で不安を抱えながら活動されているのではと心配しています。

昨年度ごりまる学校訪問がゼロだったようですが、低学年が公共図書館の仕組みを知る場であると思いますが、ゼロということは先生たちに関心がないということなのでしょうか。さびしいと感じます。物流が大事だと思います。図書の時間が何かにすり替えられたりということは無いのでしょうか。お伝え方々お願いしたいと思っています。

広瀬委員長：小学校中学校の様子などを教えていただけますか。

植田委員：小学校のほうからまず説明します。読書支援者の自主的な研修につきましては学校では把握していません。支援者の方が時間外に行かれていますのだと思います。教員は府の職員として8時半から5時までの勤務と決まっています。支援者は吹田市の職員ということで時間給（1日6時間（実働））の勤務で、その間は学校で働く決められています。その時間に研修に行くという勤務条件ではありません。参加するとしたら勤務外の時間ということになります。府や市から読書支援者も研修に行くことが可能ですという文書が来た場合には、研修参加できます。

一人なのでという御心配なのですが、学校には学校図書館司書教諭の資格を持った教員が1名以上配置されています。担当職員と相談しながら年間計画をたてて進めています。読書支援者が一人でやっているということはないと思っています。ただ、経験のある方と新たに支援者になられた方がいます。経験のある方の中には、教諭を経験して支援者になられた方もおられます。その方たちからの教えていただいているのだと思います。学校では図書館予算があり新書の購入、予算の中での選書や配架をどのようにしたらよいか、図書室の中の掲示の仕方などを支援者の方が担当職員と相談して行っています。今はバーコードで本の貸出・返却をしています。今年度から個人情報の関係で名前なしにという通達が来ました

ので、それらの方法について相談しながら進めているのが現状です。市民の方が使う図書館と学校図書館の違いは、子供達が年間を通じてどのような本を読んでいるのか、この子にはこんな本をすすめたいとか、国語の教科書に載っている本の著者の関連図書などを季節によってこのように配置したほうが良いということなどを教職員と支援者と相談しながら行っています。

ごりまる学校訪問については、昨年度は地震があつたり台風が来たりして、そのような余裕が学校にはございませんでした。プールや体育館が使えない学校もございました。出前授業のようなものは図書館だけでなく減っております。今年度落ち着きましたら、また要望があるのではと思っています。図書の時間は子供たちも楽しみにしているので必ず確保しています。情報教育として、図書館の目録や調べ学習のしかたについても教科書に出ているのでそのことも併せて図書館教育の一環としてとらえています。

野々上委員：お話を伺ってほっとしています。片山小学校は以前から良い読書活動をしていると聞いています。先生方もフォローしている様子がよくわかりました。支援者さんたちは横の連携を取っていても、研修が保障されなければ、狭い範囲の研修しかできない。市が責任を持って研修を保障することが大事で、そこを現在市立図書館がカバーしていますが、それだけではカバーしきれないのが現状だと思います。一番の願いは研修の保証と支援者連絡会が箕面や豊中の司書連絡会のように作られることが必要と感じてバックアップしています。今後ともどうぞよろしくをお願いします。

酒井委員：中学生は全国学力テストの統計でもそうですが、本を読まないです。現状は朝学校に来て、昼休みしか外で遊ぶ時間がないのでうちの学校はほぼ8割が外で遊んでいます。また授業してクラブして塾に行くというようななかで、SNSの短い文のやり取りは上手なのですが、なかなか長い文が書けません。図書の時間はありませんので国語の時間で取り組むのですが、チャレンジテストや入試などもありますので、昨年度は入試の前日も授業、テストの後も授業、始業式の後も授業、全部の授業の時間数を確保するのが大変な中、短歌や俳句の発表会とかビブリオバトルなどを授業内でしているのがやっとの現状です。中学校の支援者は隔週なので、両方の学校の良いところを聞かせてもらっています。中学ではコンピュータを使っての貸出しなどは生徒がします。読書も生徒たちがアピールしています。図書便りも支援員さんが素晴らしいのを作成してくれました。購入本も図書委員と話をして希望をあげてくれています。本の帯を掲示したりしています。各学校間の取組みを教頭会間でも共有しながら行っているのが現状です。本が好きな生徒はたくさん利用してくれて、その子たちにとっては図書室が本当に落ち着ける居場所になっています。本の世界が好きな子がたくさんいて幸せそうにしてくれるのがうれしいと支援員さんとも話しています。本や長文を読むことが必

要だと思うので学校としても取り組んでいます。先程の小学校のように図書の間がないので啓発活動は図書委員会で行い、図書委員会の中に支援員さんが入って子供たちと一緒に活動を進めてくれているのが現状です。

広瀬委員長：忙しい中で読書推進に取り組んでいるので、支援員も孤立することなく教職員も一緒に環境づくりをさらに進めていってほしいということですね。研修については今のところ無理だという事であれば、任意の自主研修で都合のつく人が参加ということですが、どういう日時に設定するとより参加しやすいか、意見を聞いていただくと良いと思いました。

野々上委員：今回は夏休みの読書活動について研修をするとのこと。各学校を回することで研修に参加する人が増えるのをゆっくと長い目で見ていきたい。また、バックアップしていきたいと思っています。

広瀬委員長：数値の確定したものはおよそいつごろになりますか。

長館長：確定値の入ったものについては今月中をめどにと思っています。文言の間違いや数値の間違いもあると思いますので訂正し、評価の基準を定めて送ります。

広瀬委員長：各委員は数値の確定したものが送られたら、8月末までに各委員が評価を出していただきそれを集約して、次回の会議で検討して協議会としての評価を決めるという手続きになります。

### 3 報告事項

#### (2) 中央図書館の耐震補強等改修工事について

##### 事務局説明（長館長）

中央図書館耐震補強及び大規模改修工事は建築工事、機械設備工事及び電気工事を分離発注していますが、令和元年（2019年）5月7日に一般競争入札による公告をしたところ、上記工事のうち、機械設備工事に対する参加表明がなかったため、入札が不成立となりました。工事を分離発注としているため、同時に建築工事の入札中止及び公告前の電気工事も入札保留となりました。

そのため、当初、令和元年7月議会に建築工事と機械設備工事の請負契約議案の提案を予定しておりましたが、入札が延期になったため見送りました。改めて6月28日に再度の公告を行いました。

再度の一般競争入札は前回より参加資格要件を緩和して行います。8月1日が改札日ですが、落札業者が決まり次第、令和元年9月議会にあらためて本工事請負契約議案の提案を予定しています。同議会で承認を得られれば、10月着工、1年の工事期間を経て、令和2年（2020年）11月リニューアルオープンの運びとなる予定です。当初7月議会承認、8月着工、来年令和2年9月リニューアルオープンを予定しておりましたが、2か月の延期となる見込みです。

耐震診断の結果中央図書館は大地震（震度6強～7程度）発生時に倒壊または崩

壊の危険性が高いことが判明しましたため、市民の安全に配慮し、平成 31 年（2019 年）4 月 1 日から閉館しております。供用開始までの間は、総合福祉会館をお借りして臨時窓口を開設し、予約資料の貸出・返却及び、乳幼児向けの読み聞かせ等の図書館業務を継続して行っております。所蔵資料と事務室機能につきましては、供用開始まで旧岸部診療所と千里山・佐井寺図書館に分散して一時移転する予定です。臨時窓口は小さいながら予約本の受け渡しと返却をしていますがたくさんの方にお越しいただいています。ほかの図書館では IC タグによる自動貸出機で借りていただいています、臨時窓口では対面での対応となっております。予約の件数も多くなりまして、皆さん図書館が必要だと感じてくださっているように思います。

### （3）吹田市立健都ライブラリー整備進捗事業について

#### 事務局説明（林野参事）

健都ライブラリーの整備事業の進捗状況について、御報告申し上げます。

事業の概要でございますが、健都ライブラリーは、北大阪健康医療都市（健都）内に既存の市内図書館の設置目的に加えて、市民の健康寿命の延伸に資することを目的といたしまして、整備を進めている施設でございます。

進捗状況について報告事項は、大きく 2 点ございます。

まず 1 点目としまして、建設工事について、スケジュールについては、(1) にお示ししておりますように、工事はすでに着工しており、令和 2 年（2020 年）6 月末までを予定しております。令和 2 年 7 月に建物引渡し、開館準備期間を経まして、令和 2 年 11 月に供用開始予定でございます。建物の構造及び面積は、(2) にお示しするとおりでございます。参考に、資料 3 枚目以降に位置図、平面図、完成予想図等を付けておりますので、合わせてご参照ください。

続きまして、報告事項 2 点目として、指定管理者制度の導入について、でございます。昨年、平成 30 年（2018 年）11 月の市議会において、吹田市立図書館条例の一部改正をご承認いただき、健都ライブラリーに指定管理者制度を導入することといたしました。健都レールサイド公園と健都ライブラリーを一体的に運営するために、健康医療部北大阪健康医療都市推進室、土木部公園みどり室、地域教育部中央図書館の 3 室で協議を重ね、指定管理者候補者選定に向けて、作業を進めているところでございます。

指定管理業務は項目 3 の (1) のとおり、そして、指定管理者の提案による自主事業は次のページの (2) に示しておりますように行っていきたいと考えております。指定管理業務は、令和 2 年 4 月 1 日から、3 段階に分けて順次開始する予定です。公園は完成しておりますので、公園から始めて、ライブラリーへと順に進めてまいります。

選定等に係るスケジュールは、(5) のとおりでございます。5月16日に募集要項等を公表し、6月4日に説明会を実施しましたところ、説明会には32の事業者の参加がございました。6月17日には事業者からの質問に対する回答を吹田市HPにおいて公表いたしました。内容が重複したものも含め、質問数は延べ約230ございました。今回は業務が多岐にわたるものですので、2回目の質問延べ約50を受け付けし、6月28日に回答の公表を行いました。今後も引き続き、指定管理者の決定に向けまして、作業を進めてまいります。

#### 4 その他

- (1) 次回の日程調整 11月18日(月)で調整
- (2) その他

##### ・配布資料「箕面市図書館整備概況」について

###### 稲垣委員説明

大阪大学の箕面キャンパスから移転に伴い図書館整備される。箕面市が大阪大学に指定管理を任せるもの。

##### ・配布資料「北千里小学校跡地施設整備ワークショップ」の案内

##### ・配布資料「'19(第45号)もうよんだかな?」及び「てくてく2019」について

###### 事務局説明(井手館長)

毎年、その前の年に出版された子供の本の中から、夏休みにあわせ司書が読んでほしい本を厳選し、内容紹介つきでパンフレットを作成して図書館で配布しています。中学・高校生世代むけの「てくてく」にはイラストや内容紹介をYA世代からも募集して掲載しています。それに合わせて、7月10日から8月31日の間、各館「夏休み文庫」として特設コーナーを設け、掲載図書の貸出をしています。

(部長挨拶)

広瀬委員長：本日予定しております案件は以上ですので、本日はこれで会議を終わらせていただきます。長時間ありがとうございました。

---

本要録並びに配布資料は、吹田市立の各図書館及び市民総務室で閲覧可能です。

要録作成日：令和元年(2019年)8月21日